



高名なお坊さん(その7)

西行法師 (1118年～1190年3月31日)

西行法師は平安時代末期から鎌倉時代初期の歌人で、僧侶でもある。元永1(1118)年に、現在の和歌山県紀の川市にあった紀伊国田中荘の佐藤氏一族の家に生まれたといわれている。当初、佐藤義清という名前だった西行。武芸の才能に秀で、京都で宮仕えをするようになり、やがて鳥羽院の『北面の武士』として活躍する。そんな華やかな世界に身を置いていた義清だったが、仏教にも深く心を寄せ、23歳の時に突然、妻子と別れて出家した。

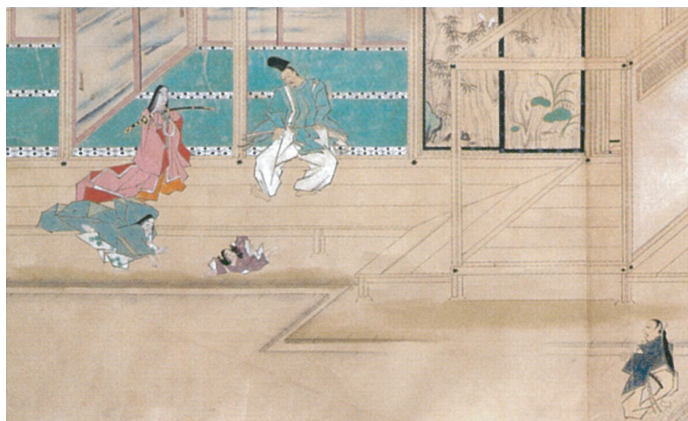
出家する際、「泣いて衣のすそに取りすがる子どもを、縁側から蹴落として家を捨てた」という逸話が残されている。



最西行法師像(MOA美術館蔵)

出家後は「円位」と名乗り、都周辺の寺や庵に暮らし、後に名を「西行」と改める。

京都の鞍馬山などで暮らし、高野山で生活しながら、全国を旅して多数の和歌を詠み、仏道の修業と和歌を生涯の仕事とした。



出家の際の西行をあらわした「西行法師行状絵巻」(センチュリーミュージアム蔵)

住職レター

先日(六月五日)、善教寺本堂にて『初参式』を勤めました。コロナ禍で中止が続き、三年ぶりの開催。『初参式』とは、お子さまの誕生後、初めて仏さまの前で手を合わせ、お祝いするものです。お子さまと共に親御さまも仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめて頂く、親として生きる出発点であり、赤ちゃんによつて与えられた尊い仏縁であります。



お子さまが生まれたら、お宮参りも一般的だと思われそうですが、お寺参りもありますので、覚えておいて下さいね。

その『初参式』にて、嬉しい事がありました。なんと、お子さまを連れとお母さまは、私が住職就任直後、約二十六・七年前の『初参式』に、赤ちゃんで来られた方でした。当然、ご自分が『初参式』で寺の本堂へお参りした記憶は

無いでしょう。しかしこうして、お母さまになられた今、ご自分のお子さまと一緒に、寺の本堂へお参りされています。有り難く、尊い縁だなくと、嬉しくなりました。仏さまの子の誕生を祝うと同時に、私自身が仏さまの子であった事を、改めて実感させて貰いました。

